

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日

Date of Application:

2002年 7月16日

出願番号

Application Number:

特願2002-206548

[ST.10/C]:

[JP2002-206548]

出願人

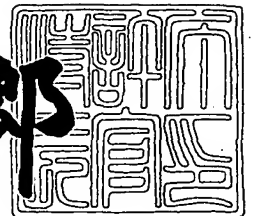
Applicant(s):

菊水化学工業株式会社

2003年 1月31日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3002461

【書類名】 特許願

【整理番号】 46P05

【提出日】 平成14年 7月16日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G09F 5/00

【発明者】

    【住所又は居所】 岐阜県各務原市松本町二丁目4 5 7 番地 菊水化学工業株式会社内

    【氏名】 高田 博道

【発明者】

    【住所又は居所】 岐阜県各務原市松本町二丁目4 5 7 番地 菊水化学工業株式会社内

    【氏名】 伊藤 茂樹

【発明者】

    【住所又は居所】 岐阜県各務原市松本町二丁目4 5 7 番地 菊水化学工業株式会社内

    【氏名】 山内 秀樹

【特許出願人】

    【識別番号】 000159032

    【氏名又は名称】 菊水化学工業 株式会社

    【代表者】 遠山 昌夫

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 019943

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

    【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 色見本カード及びそれらを組合せた色見本帳

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 3 色以上の色見本を並べて示した 1 枚の色見本カードであって、

この 3 色以上の色見本には、その色見本カードの基本となる基調色、その基調色に変化を与えることができる副調色、色見本カード全体を引き締めることができる強調色をそれぞれ 1 種又は 2 種以上有し、

前記基調色を示す基調色色見本が他の色を示す色見本の面積よりも大きく、前記強調色を示す強調色色見本の面積が最も小さいことを特徴とする色見本カード

。【請求項 2】 基調色色見本、副調色色見本、強調色色見本が色見本カード上に並列に示され、その色見本カード中央部分にある色見本が基本色色見本であり、その基本色色見本の一方には、副調色色見本があり、これとは異なる方には、強調色色見本があることを特徴とする請求項 1 に記載の色見本カード。

【請求項 3】 基調色色見本が 1 種類で、副調色色見本が及び強調色色見本が 2 種類以上示されていることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の色見本カード。

【請求項 4】 基調色色見本、副調色色見本、強調色色見本の色相が同じで、明度及び／又は彩度が異なる色であることを特徴とする請求項 1 ないし請求項 3 のいずれかに記載の色見本カード。

【請求項 5】 請求項 1 ないし請求項 4 のいずれかに記載の色見本カードを複数枚組合せたことを特徴とする色見本帳。

【請求項 6】 前記複数枚の組合せが基調色色見本、副調色色見本及び強調色色見本のいずれかの色見本の色から受ける印象ごとにグループ化したものであることを特徴とする請求項 5 に記載の色見本帳。

【請求項 7】 さらに、前記グループ化されたグループ別色見本帳を複数のグループ別色見本帳により構成させたことを特徴とする請求項 5 又は請求項 6 に記載の色見本帳。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、建築物などの構造物の塗装に用いられる塗料について、その塗料から得られる色を示し、それらの色から希望する色を選択するための色見本カード及びそれらを組合せた色見本帳に関するものである。

【0002】

【従来技術】

従来から、色見本カードや色見本帳による色の提案、選択を行ない、塗料の乾燥硬化した後の色を決定することが多い。この色見本カードの多くは、マンセル値などにより数値化し、その数値を記号化し、その記号を色の見出しとして用い、その記号順に表示したものである。

【0003】

このマンセル値は、色を色相、明度、彩度に区分し、それぞれを数値化し、その3つの数値を組合わせて表したものである。このように色を記号として表したことにより、その記号によりある程度特定した色を選択することができる。つまり、色に付与されている記号が分かればその色をある程度特定することができるものである。

色に付与された記号により色をある程度特定することができるため、色を表現する場合に、「～っぽい色」「～のような色」などのあいまいな表現を用いることなく、個人差がなく適確に色を特定することができる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

ところが、色を数値化し、記号化して並べたカラーカードやカラー見本帳は、その記号により色を特定するには、たいへん優れたものであるが、希望する色を適確に選択することが困難な場合がある。これは、色を数値化し、その値から順に並べてあるため、色の濃淡の違いなどによる色の微差により表示される色数が多くなる場合がある。

【0005】

このような色見本カード、色見本帳などを用いた場合では、被塗装物に2以上の色を付与する場合や被塗装物に隣接するものの色を考慮して色を選択する場合など、2以上の色を統一感があって、まとまりのある配色にすることが難しいことがある。つまり、従来にある色見本カード、色見本帳などでは、単色としての色を表現したものであり、そのため、色数が多くなる傾向があり、また、複数の色を組み合わせ、統一感のあるまとまったものではなかった。

## 【0006】

この発明は、上記のような従来技術に存在する問題点に着目してなされたものである。その目的とするところは、色見本カード内にある基調色、副調色、強調色のいずれかの色見本から色を選択し、色見本カードを決定し、その色見本カードにある複数の色見本から2以上の色を容易に選択することができるもの、又は、被塗装物に隣接するものの色を考慮して色を容易に選択することができるものであり、そして、その2以上の色、又は、隣接するものと被塗装物の色とが統一感があり、まとまりのあるものとなる色見本カードを提供することにある。

## 【0007】

## 【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するために、請求項1に記載の発明の色見本カードは、3色以上の色見本を並べて示した1枚の色見本カードであって、この3色以上の色見本には、その色見本カードの基本となる基調色、その基調色に変化を与えることができる副調色、色見本カード全体を引き締めることができる強調色をそれぞれ1種又は2種以上有し、前記基調色を示す基調色色見本が他の色を示す色見本の面積よりも大きく、前記強調色を示す強調色色見本の面積が最も小さいものである。

## 【0008】

請求項2に記載の発明の色見本カードは、請求項1に記載の発明において、基調色色見本、副調色色見本、強調色色見本が色見本カード上に並列に示され、その色見本カード中央部分にある色見本が基本色色見本であり、その基本色色見本的一方には、副調色色見本があり、これとは異なる方には、強調色色見本があるものである。

【 0 0 0 9 】

請求項 3 に記載の発明の色見本カードは、請求項 1 又は請求項 2 に記載の発明において、基調色色見本が 1 種類で、副調色色見本が及び強調色色見本が 2 種類以上示されているものである。

請求項 4 に記載の発明の色見本カードは、請求項 1 ないし請求項 3 のいずれかに記載の発明において、基調色色見本、副調色色見本、強調色色見本の色相が同じで、明度及び／又は彩度が異なる色であるものである。

【 0 0 1 0 】

請求項 5 に記載の発明の色見本帳は、請求項 1 ないし請求項 4 のいずれかに記載の色見本カードを複数枚組合せたものである。

請求項 6 に記載の発明の色見本帳は、請求項 5 に記載の発明において、前記複数枚の組合せが基調色色見本、副調色色見本及び強調色色見本のいずれかの色見本の色から受ける印象ごとにグループ化したものである。

【 0 0 1 1 】

請求項 7 に記載の発明の色見本帳は、請求項 5 又は請求項 6 に記載の発明において、さらに、前記グループ化されたグループ別色見本帳を複数のグループ別色見本帳により構成させたものである。

【 0 0 1 2 】

【発明の実施の形態】

以下、この発明の実施形態を詳細に説明する。

この発明は、3 色以上の色見本を並べて示した 1 枚の色見本カードであって、この 3 色以上の色見本には、その色見本カードの基本となる基調色、その基調色に変化を与えることができる副調色、色見本カード全体を引き締めることができる強調色をそれぞれ 1 種又は 2 種以上有し、前記基調色を示す基調色色見本が他の色を示す色見本の面積よりも大きく、前記強調色を示す強調色色見本の面積が最も小さいものである。

【 0 0 1 3 】

この色見本カードは、塗料が乾燥硬化した後に形成される塗膜の色を選択、確認などを行なうものである。つまり、塗料により塗装される被覆物の塗装により

得られる色を選択及び得られた色を確認するためのものである。

得られた色が塗装前に選択した色と同じであることを確認する場合では、色見本カードに複数の色を示す必要はないが、塗装前に色を選択する場合、色見本カードに1色の色見本のみ示されているものでは、複数の色見本が示されている色見本カードに比べ、多くの枚数の色見本カードが必要となることになる。

#### 【0014】

この発明に記載された色見本カードは、主として、塗装前に色を選択するものであるため、多くの色見本が示されている色見本カードが良く、3以上の色見本が示されているものであることが必要である。3以上の色見本が示されていることにより、色見本カードの基本となる基調色、その基調色に変化を与えることができる副調色、色見本カード全体を引き締めることができる強調色を1枚の色見本カードに示すことができ、1枚のカラーカードに色の統一感のあるまとまったものとなり、色の選択において、違和感のないものとなる。

#### 【0015】

基調色とは、1枚の色見本カードの基本となる色のことで、この基調色を基にして、後述する副調色及び強調色が決まり、1枚の色見本カード全体の印象やイメージが決定される重要なものである。

色見本カードは、被塗装物の種類、用途などにより選ぶことがあり、このため、色見本カードの基本となる基調色は、それに応じて選択されることが多い。つまり、この色見本カードの多くの場合、建築物などの構造物の外壁、内壁、天井などの塗装した後に得られる色を選択するためのものであることから、建築物に違和感なく、多く用いられている色を基調色とすることが好ましい。

#### 【0016】

建築物に違和感なく、多く用いられている色には、淡色系のものが多く、濃色系の色や赤、青といった原色を建築物の外壁に用いた場合、建築物の周辺との調和することが難しく、違和感のあるものとなることが多いため、用いられることが少ない。また、内壁や天井においても、濃色系の色や赤、青といった原色を用いた場合、その空間に置かれる家具などと調和するものが少なく、暗過ぎたり、明る過ぎたりすることがあり、違和感のある空間となることが多い。このような

ことより、淡色系の色を用いることが多い。このようなことから基調色は、淡色系の色が好ましい。

#### 【0017】

色には、色相、明度及び彩度の属性があり、それにより色を表現することがある。色相は、赤、青、黄などの色みの違いをいうものであり、この色みのない色のことを無彩色といい、白、黒、灰色などがあり、赤、青、黄など色みのあるもののことを有彩色という。

明度は、明るさの度合いをいうものであり、明度が低い場合は、黒っぽい色のものを指し、高いものは、白っぽい色を指す。彩度は、色の鮮やかさを表すものであり、彩度が低い場合は、黒っぽいくすんだ色みの少ない色のものを指し、大きいものは、鮮やかな色みの強い色のものを指す。

さらに、明度と彩度の概念を合わせた色調により色の印象を表すことがある。この色調は、明度と彩度とが変化することにより色の調子が変わることであり、色の濃さや明るさに大きく影響するものである。

#### 【0018】

次に、副調色とは、基調色とは異なる色であって、基調色に変化を与えることができる色のことであり、基調色によりその副調色の色が決定される。例えば、基調色が淡色系の色であれば、その基調色より濃い色調の色や暗い色調の色を用いることになる。逆に、基調色が濃色系の色であれば、その基調色より薄い色調の色や明るい色調の色を用いることになる。

#### 【0019】

また、この副調色は、基調色と同じ色相のもの又は色相が近いものが好ましい。このような色相を用いることにより、色見本カードがよりまとまりのあるものとなる。

#### 【0020】

強調色とは、基調色及び副調色とは異なる色であって、色見本カード全体を引き締めることができる色のことで、基調色や副調色によりその強調色の色が決定される。

この強調色は、色見本カードにアクセントを与えるために用いられることから



、色見本にある基調色が淡色系の色であれば、その強調色には、基調色、副調色より濃い色調の色や暗い色調の色を用いることになる。逆に、色見本にある基調色が濃色系の色であれば、その強調色には、基調色、副調色より薄い色調の色や明るい色調の色を用いることになる。さらに、基調色、副調色と対照的な色を用いることもできる。

【0021】

さらに、基調色色見本、副調色色見本、強調色色見本の色相が同じで、明度及び／又は彩度が異なる色であることが好ましい。色相が異なる色で、基調色色見本、副調色色見本、強調色色見本作成し、組合せた場合では、色見本カードの統一感、まとまりに欠けることがある。そのため、各色見本の色の色相が同じで、明度、彩度又は色調が異なる色であれば、より統一感及びまとまりのあるものとなる。

【0022】

上記のような基調色、副調色及び強調色がそれぞれ1又は2以上の色により色見本カードは、構成される。

しかし、基調色が2以上ある場合では、その基調色に対応した副調色及び強調色が必要となり、それぞれの基調色に対して、副調色及び強調色を特定しなければならいことになり、1枚の色見本カードのある色見本の配置が複雑になることがあり、色の選択が難しくなることがある。

【0023】

このようなことにより、1枚の色見本カードにおいて、基調色色見本が1種類で、それに対応した副調色色見本が及び強調色色見本が2種類以上示されていることが好ましい。1つの基調色に対して複数の副調色色見本が及び強調色色見本があることにより、基調色を基とし、多くの色見本を統一感のある見栄えのする配色にした色見本カードを得ることができる。

【0024】

また、1つの基調色に対する副調色色見本及び強調色色見本の数、それぞれ2以上であることが好ましく、多すぎる場合には、副調色及び強調色の色の選択が難しくなることがあるため、副調色色見本及び強調色色見本がそれぞれ2～5

種類の色見本があることが好ましく、この範囲であれば、色の選択が容易なものとなる。

#### 【0025】

この基調色は、色見本カードの基本となる色であるが、被塗装物の大部分を占める色となることが多い。そのため、色見本カードにおいてもその基調色を示す基調色色見本の面積が他の色を示す色見本の面積よりも大きいことが必要である。また、色見本カードにおいて、アクセントに用いられる色である強調色は、被塗装物でもその色の占める面積が小さいことが多いため、色見本カードの色見本の中で最も小さい面積である。

#### 【0026】

さらに、色は、使用する面積によって、その色の感じ方が異なるものである。つまり、明るく鮮やかな色は、面積が大きくなることによって、より明るく鮮やかに感じるものであり、暗くくすんだ色は、面積が大きくなることによって、より暗くくすんだように感じるものである。

そのため、被塗装物の大部分を占める色となることが多い基調色は、その色見本カードにおいてもその基調色を示す基調色色見本の面積が他の色を示す色見本の面積よりも大きいことが必要である。このことにより、基調色の感じ方を実際の被塗装物に色を付与した後に感じる感じ方と近い物とすることができる。

#### 【0027】

また、色見本カードに示された複数の色見本の内、基調色色見本が他の色を示す色見本の面積よりも大きいものであることにより、被塗装物の大部分を占める色であり、希望するイメージに合う色を他の色見本にある色の影響をあまり受けることなく、的確に選択することができる。

さらに、建築物に違和感なく、多く用いられている色には、淡色系のものが多いため、この色見本カードにある基調色は、淡色系ものであることが多い。つまり、基調色以外の色見本は、基調色より濃い色の色見本であることになる。

#### 【0028】

このような場合、色見本カードに示された複数の色見本の内、最も薄い色を示す色見本が基調色となる。この淡色系の基準色色見本は、他の色見本より薄い色

のため、他の色見本にある色の影響を受け、見劣りすることがあり、そのため、基準色色見本の面積をカラーカード内で相対的に大きくすることで、他の色見本にある色の影響を受け難くすることができる。

【0029】

副調色は、上記にあるように基調色とは異なる色であって、基調色に変化を与えることができる色のことである。つまり、基調色に塗装された又は塗装する予定の被塗装物に対して、色での変化を与える色になる。

この副調色は、被塗装物での基調色が占める面積より小さい面積となるものである。そのことにより、色見本カードにある副調色色見本も基調色色見本に比較して、小さいものであることが必要である。

【0030】

また、基調色が淡色系のものである場合では、その基調色より濃い色調の色や暗い色調の色を用いることになることが多い。そのため、基調色への影響を少なくし、見劣りすることなくするために副調色色見本が、基調色色見本より面積が小さいものであることが必要となる。

【0031】

強調色は、上記にあるように基調色及び副調色とは異なる色であって、色見本カード全体を引き締めることができる色のことである。これも副調色と同様に、基調色に塗装された又は塗装する予定の被塗装物に対して、アクセント的に用いられる色になる。

この強調色は、被塗装物での基調色が占める面積や副調色の占める面積より小さい面積となるものである。そのことにより、色見本カードにある強調色色見本も基調色色見本や副調色色見本に比較して、小さいものであることが必要である。つまり、色見本カードにある色見本の中で最も小さい面積となる。

【0032】

また、基調色が淡色系のものである場合では、その基調色、副調色より濃い色調の色や暗い色調の色を用いることになることが多い。そのため、基調色や副調色への影響を少なくし、見劣りすることなくするために強調色色見本が、基調色色見本及び副調色色見本より面積が小さいものであることが必要となる。

前述した色見本カードにある基調色色見本、副調色色見本及び強調色色見本にある各色により、被塗装物、又は、隣接するものと被塗装物の色とが統一感があり、まとまりのあるものとすることができる。

#### 【0033】

基調色は、被塗装物や被塗装物のある空間の中で、その色の占める割合が50%～80%に使う予定又は使われているものである。また、副調色は、15%～35%、強調色は、5%～15%の被塗装物や被塗装物のある空間の中で占めるものである。

これら基調色、副調色及び強調色を用いる代表的なものとして、建築物の外装であれば、基調色を外壁とした場合、副調色を窓枠などの建具、ドア、屋根のひさし部分である軒天、屋根などの色とし、強調色を外構部分である門扉、塀などの色とすることができる。また、外壁を基調色と副調色とで前記範囲内で構成させ、強調色を窓枠などの建具、ドア、屋根のひさし部分である軒天、屋根などの色とすることができる。

#### 【0034】

さらに、建築物の外装をその建築物のある空間で考えた場合では、空、海など自然にあるものや隣接する構造物の色を基調色とし、外壁を副調色の色から選択し、強調色を外構部分である門扉、塀などの色とすることができる。

建築物の内装や建築物の内装以外にも自動車、電車など人が居住する空間の場合であれば、壁、天井を基調色とし、椅子などの家具、電化製品に副調色の色を用い、インテリア用品の色を強調色とすることができる。

#### 【0035】

さらに、この色見本カードは、建築物や人の居住空間にある色の選択だけに限らず用いることができる。例えば、自動車の場合であれば、ボディーの色を基調色とし、バンパーなどの色を副調色とし、窓の周りなどを強調色として各色を選択することができる。また、椅子であれば、座部及び背もたれ部を基調色で選び、肘掛部を副調色で、脚部を強調色から選択することができる。

#### 【0036】

次に、この色見本カードでの基調色色見本、副調色色見本及び強調色色見本の

配列について図を用いて説明する。

まず、図1及び図2には、色見本カードの実施形態の一例を示す。これらの色見本カード11は、1枚の色見本カード11に基調色、副調色及び強調色の3色を示す色見本を並べて示したものであって、基調色を示す基調色色見本12が他の色を示す色見本の面積よりも大きく、強調色を示す強調色色見本14の面積が最も小さいことものである。

【0037】

これらの色見本カードは、矩形状のものであることが好ましい。矩形状であることにより、色見本カードの作成、保管、輸送などの効率が向上することがある。また、色見本の形状は、特に制限はないが、矩形状のものが好ましい。色見本の形状を矩形状にすることにより色見本の面積の違いが判り、矩形状のカラーカード内に効率的に示すことができる。

【0038】

図1の色見本カード11は、基調色色見本12、副調色色見本13、強調色色見本14が色見本カードに並列に示され、その色見本カード11の中央部分にある色見本が基本色色見本12であり、その基本色色見本の一方には、副調色色見本13があり、これとは異なる方には、強調色色見本14があるものであり、

このように色見本カードの中央部分に基調色があることで、基調色に対しての副調色及び強調色を選ぶことができ、基調色に対して、まとまりのある色を選定することができる。

【0039】

また、各色見本間の隙間15を設けることが好ましい。隙間15を設けることにより、各色見本の境界がはっきりし、色見本カードにある複数の色を区別することが容易なものとなる。また、この隙間15の色は、その色見本カードにない色であれば良く、淡色、濃色の区別のない、白色などが好ましい。また、透明であってもなんら問題はない。

【0040】

また、色見本カードの端に空白部16を設けることが好ましい。この端にある空白部16は、色見本カードを手で触る場合などに利用することができ、色見本

カードにある色見本に触れることなく色見本カードを扱うことができる。色見本カードに手などで頻繁に触れたことにより手垢などで色見本が汚れることがあり、その色が変化することがある。

#### 【 0 0 4 1 】

さらに、複数枚の色見本カードを綴じる場合にも用いることができる。この空白部 1 6 を色見本カードの綴じ代とすることにより、色見本を傷つけることなく綴じることができる。

このように空白部 1 6 を利用することができるため、2 箇所以上あることが好ましいことになる。2 箇所以上あることにより、1 つの空白部 1 6 を利用してカラーカードを複数枚の綴じたカラー見本帳を作成した場合、もう 1 つ以上の空白部 1 6 を利用して色見本カードを扱うことができる。

#### 【 0 0 4 2 】

さらに、図 3 には、1 枚の色見本カード 1 1 の中央部分に基本色色見本 1 2、その基本色色見本 1 2 の一方には、3 種類の副調色色見本 1 3 a ~ 1 3 c があり、これとは異なる方には、3 種類の強調色色見本 1 4 a ~ 1 4 c があるものであり、基調色色見本 1 2 が他の色を示す色見本の面積よりも大きく、強調色色見本 1 4 a ~ 1 4 c の面積が最も小さいものとしたものである。

このように色見本カードの中央部分に基調色色見本 1 2 があることで、基調色に対して、複数色の副調色及び強調色から色を選ぶことができ、基調色に対して、まとまりのある色を選定することができる。また、1 つの色見本カード 1 1 に多くの色見本を示すことができる。

#### 【 0 0 4 3 】

上記のような構成の色見本カードは、複数枚用意され、その中から色を決めることが多い。以下に、この色見本カードの使い方について説明する。

被塗装物が基調色により塗装される場合では、複数枚の色見本カードの基調色色見本により、色を選定する。その選定された色がある色見本カードにある副調色色見本、強調色色見本からそれぞれ必要な色を決める。

#### 【 0 0 4 4 】

被塗装物が副調色又は強調色により塗装される場合では、基調色になるものの

色から色見本カードを選択する。その色見本カードにある副調色色見本又は強調色色見本からその被塗装物の色を選定する。

このように、複数の色見本カードを用意するため、複数枚組合せた色見本帳にして用いることが好ましい。

#### 【 0 0 4 5 】

図 4 には、図 3 に示した色見本カード 1 1 を複数枚組合せた色見本帳を示す。

この色見本帳は、複数枚の色見本カード 1 1 を止め具 1 9 により綴じたものである。このように複数枚のカラーカードをまとめることにより、多くの色見本カードを持ち運びが容易なものとなることができ、多くの色から色の選択が容易にできるものとなる。また、綴じることにより、色見本帳がバラバラになることがないものとなる。

#### 【 0 0 4 6 】

図 4 に示された色見本帳は、色見本カード 1 1 の端にある空白部 1 6 のほぼ中央部の 1 箇所を止め具 1 9 により綴じたものである。この止め具 1 9 の位置は、特に制限があるものではないが、色見本カードにある空白部 1 6 にあれば良く、このように綴じることにより、色見本を傷つけることなく綴じることができる。

また、1 箇所だけで綴じることにより、図 4 に示したように複数の色見本カード 1 1 を扇状に広げることができ、見易しく、色の選択が容易なものとなる。

#### 【 0 0 4 7 】

色見本帳を構成する複数の色見本カードは、任意に選択したものでも良いが、基調色色見本、副調色色見本及び強調色色見本のいずれかの色見本の色から受ける印象ごとにグループ化したものが好ましい。

このように色から受ける印象ごとにグループ化することにより、色の選択が迅速に行なうことができることがある。このグループは、赤系、青系などのように色相の系統別としたもの、ナチュラル、モダン、クラシックなどと言った雰囲気我代表するもの、中間色彩、くすみ系の色彩、明るい色彩などと言った色の明るさ別にしたものなどがある。

このように色から受ける印象ごとにグループ別色見本帳を用いることにより、前もってイメージしている色から受ける印象により色見本帳を選択することがで

きるため、色の選択及び決定が容易で、速いものとなる。

【 0 0 4 8 】

また、上記のようなグループ別色見本帳を複数集めたものであることがより好ましい。このようにすることにより、前もって色のイメージがない場合には、より多くの色がイメージ別にグループ化されているため、まず、イメージによりある程度の色を絞り込み、そのグループを決め、決められたグループにある複数の色見本により色を選択することができ、イメージとした色を効率的で、適確に決定することができるものである。

この複数のグループ別色見本帳は、各グループ別色見本帳を止め具などにより1つにまとめた形態や別々にあるグループ別色見本帳を1つの容器に収めた形態などがある。この形態については、利用者が適宜選択することができるものである。

【 0 0 4 9 】

以上のように、この実施形態によれば次のような効果が発揮される。

・ 3色以上の色見本を並べて示した1枚の色見本カードであって、この3色以上の色見本には、その色見本カードの基本となる基調色、その基調色に変化を与えることができる副調色、色見本カード全体を引き締めることができる強調色をそれぞれ1種又は2種以上有し、前記基調色を示す基調色色見本が他の色を示す色見本の面積よりも大きく、前記強調色を示す強調色色見本の面積が最も小さいものであることにより、色見本カード内にある基調色、副調色、強調色のいずれかの色見本から色を選択し、色見本カードを決定し、その色見本カードにある複数の色見本から2以上の色を容易に選択することができるもの、又は、被塗装物に隣接するものの色を考慮して色を容易に選択することができるものであり、そして、その2以上の色、又は、隣接するものと被塗装物の色とが統一感があり、まとまりのあるものとなる。

【 0 0 5 0 】

また、基調色を示す基調色色見本の面積が他の色を示す色見本の面積よりも大きく、強調色色見本の面積が最も小さいことで、基調色の感じ方を実際の被塗装物に色を付与した後に感じる感じ方と近い物とすることができる。



【0051】

・ 基調色色見本、副調色色見本、強調色色見本が色見本カード上に並列に示され、その色見本カード中央部分にある色見本が基本色色見本であり、その基本色色見本の一方には、副調色色見本があり、これとは異なる方には、強調色色見本があることにより、基調色に対しての副調色及び強調色を選ぶことができ、基調色に対して、まとまりのある色を選定することができる。

【0052】

・ 基調色色見本が1種類で、副調色色見本が及び強調色色見本が2種類以上示されているものであることにより、基調色を基とし、多くの色見本を統一感のある見栄えのする配色にした色見本カードを得ることができる。

・ 基調色色見本、副調色色見本、強調色色見本の色相が同じで、明度及び／又は彩度が異なる色であるものであることにより、色見本カードがより統一感及びまとまりのあるものとなる。

【0053】

・ 請求項1ないし請求項4のいずれかに記載の色見本カードを複数枚組合せたものであることにより、多くの色から色の選択が容易にできるものとなる。

・ 前記複数枚の組合せが基調色色見本、副調色色見本及び強調色色見本のいずれかの色見本の色から受ける印象ごとにグループ化したものであることにより、前もってイメージしている色から受ける印象により色見本帳を選択することができるため、色の選択及び決定が容易で、速いものとなる。

【0054】

・ さらに、前記グループ化されたグループ別色見本帳を複数のグループ別色見本帳により構成させたものであることにより、前もって色のイメージがない場合には、より多くの色がイメージ別にグループ化されているため、まず、イメージによりある程度の色を絞り込み、そのグループを決め、決められたグループにある複数の色見本により色を選択することができ、イメージとした色を効率的で、適確に決定することができるものである。

【0055】

・ 1つの基調色に対する副調色色見本及び強調色色見本の数が副調色色見本

及び強調色色見本がそれぞれ2～5種類の色見本であることにより、色の選択が容易なものとなる。

- ・ 色見本カードが矩形状のものであることにより、色見本カードの作成、保管、輸送などの効率が向上することがある。

【0056】

- ・ 色見本の形状が矩形状のものであることにより、色見本の面積の違いが判り、矩形状のカラーカード内に効率的に示すことができる。

- ・ 各色見本間に隙間を設けることにより、各色見本の境界がはっきりし、色見本カードにある複数の色を区別することが容易なものとなる。

【0057】

- ・ 色見本カードの端に空白部を設けることにより、色見本カードを手で触る場合などに利用することができ、色見本カードにある色見本に触れることなく色見本カードを扱うことができ、色見本カードに手などで頻繁に触れたことによる汚れることが少なく、色の変化が少ないものである。

また、複数枚の色見本カードを綴じる場合では、この空白部を色見本カードの綴じ代とすることにより、色見本を傷つけることなく綴じることができる。

【0058】

- ・ 複数枚の色見本カードを止め具により綴じたものであることにより、多くの色見本カードを持ち運びが容易なものとすることができ、多くの色から色の選択が容易にできるものとなる。また、綴じることにより、色見本帳がバラバラになることがないものとなる。

【0059】

次に、前記実施形態から把握できる技術的思想について以下に記載する。

- ・ 請求項1ないし請求項4のいずれかに記載の色見本カードであって、この色見本カードが建築物に係わる色彩提案に用いられるもので、基調色色見本の色が淡色系の色であり、基調色色見本の色が他の色見本より薄い色であることを特徴とする色見本カード。

このことにより、建築物に違和感ない基調色を選択することができるものである。

【 0 0 6 0 】

・ 請求項 1 ないし請求項 4 のいずれかに記載の色見本カードであって、この色見本カードが建築物に係わる色彩提案に用いられるもので、基調色色見本の色が淡色系の色であり、基調色色見本の色が他の色見本より薄い淡色系の色であり、副調色色見本及び強調色色見本の色が基調色色見本にある色より、濃い色調の色及び／又は暗い色調であることを特徴とする色見本カード。

このことにより、建築物に違和感なく、基調色、副調色及び強調色を選択することができるものである。

【 0 0 6 1 】

・ 基調色色見本にある色が被塗装物又は被塗装物のある空間の中で、その色の占める割合が 5 0 % ～ 8 0 % で、副調色色見本にある色が 1 5 % ～ 3 5 % 、強調色色見本にある色が 5 % ～ 1 5 % 用いられることを特徴とする請求項 1 ないし請求項 4 のいずれかに記載の色見本カード。

このことにより、色見本カードと同様に被塗装物又は被塗装物のある空間に統一感があり、まとまりのあるものとなる。

【 0 0 6 2 】

【発明の効果】

この発明は、以上のように構成されているため、次のような効果を奏する。

請求項 1 に記載の発明の色見本カードによれば、色見本カード内にある基調色、副調色、強調色のいずれかの色見本から色を選択し、色見本カードを決定し、その色見本カードにある複数の色見本から 2 以上の色を容易に選択することができるもの、又は、被塗装物に隣接するものの色を考慮して色を容易に選択することができるものであり、そして、その 2 以上の色、又は、隣接するものと被塗装物の色とが統一感があり、まとまりのあるものとなる。

【 0 0 6 3 】

請求項 2 に記載の発明の色見本カードによれば、請求項 1 に記載の発明の効果に加え、基調色に対しての副調色及び強調色を選ぶことができ、基調色に対して、まとまりのある色を選定することができる。

請求項 3 に記載の発明の色見本カードによれば、請求項 1 又は請求項 2 に記載

の発明の効果に加え、基調色を基とし、多くの色見本を統一感のある見栄えのする配色にした色見本カードを得ることができる。

【0064】

請求項4に記載の発明の色見本カードによれば、請求項1ないし請求項3のいずれかに記載の発明の効果に加え、色見本カードがより統一感及びまとまりのあるものとなる。

請求項5に記載の発明の色見本帳によれば、多くの色から色の選択が容易にできるものとなる。

【0065】

請求項6に記載の発明の色見本帳によれば、請求項5に記載の発明の効果に加え、前もってイメージしている色から受ける印象により色見本帳を選択することができるため、色の選択及び決定が容易で、速いものとなる。

請求項7に記載の発明の色見本カードによれば、請求項5又は請求項6に記載の発明の効果に加え、前もって色のイメージがない場合には、より多くの色がイメージ別にグループ化されているため、まず、イメージによりある程度の色を絞り込み、そのグループを決め、決められたグループにある複数の色見本により色を選択することができ、イメージとした色を効率的で、適確に決定することができるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 色見本カードの一例

【図2】 色見本カードの一例

【図3】 色見本カードの一例

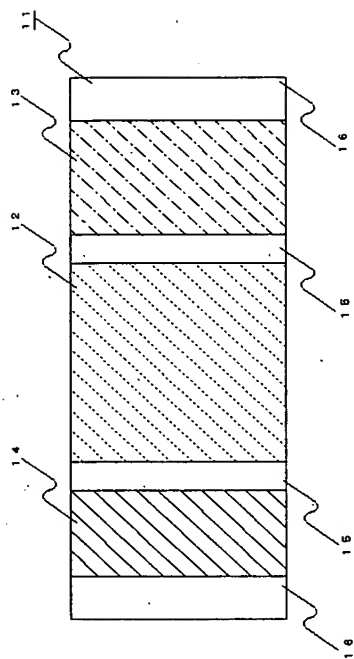
【図4】 図3に示した色見本カードを複数枚組合せたカラー見本帳

【符号の説明】

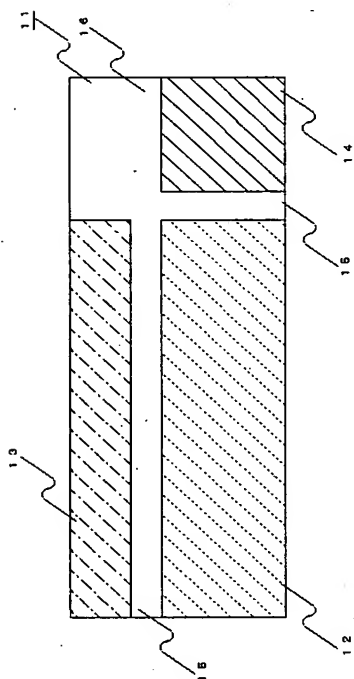
11…色見本カード。12…基調色色見本。13…副調色色見本。14…強調色色見本。15…隙間。16…空白部。

【書類名】 図面

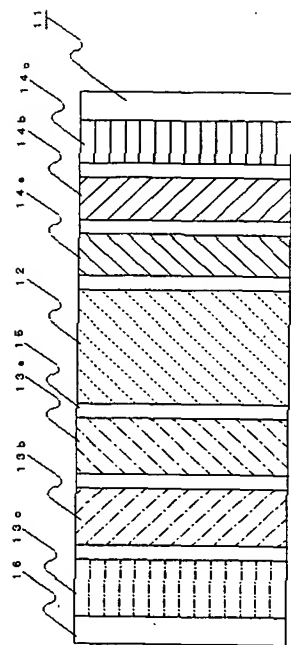
【図 1】



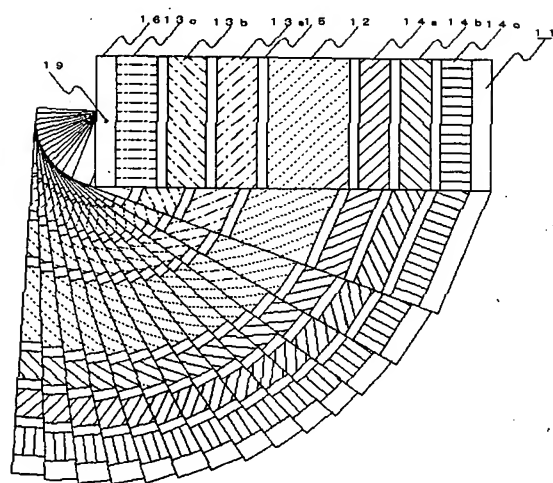
【図 2】



【図3】



【図4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 色見本カード内にある基調色、副調色、強調色のいずれかの色見本から色を選択し、色見本カードを決定し、その色見本カードにある複数の色見本から2以上の色を容易に選択することができるもの、又は、被塗装物に隣接するものの色を考慮して色を容易に選択することができる色見本カードを提供する。

【解決手段】 色を示す色見本が3色以上を並べて示した1枚の色見本カードであって、この3色以上の色見本には、その色見本カードの基本となる基調色、その基調色に変化を与えることができる副調色、色見本カード全体を引き締めることができる強調色をそれぞれ1種又は2種以上有し、前記基調色を示す基調色色見本が他の色を示す色見本の面積よりも大きく、前記強調色を示す強調色色見本の面積が最も小さいものである。

【選択図】 図1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000159032]

1. 変更年月日	1999年 1月25日
[変更理由]	住所変更
住 所	愛知県名古屋市中区丸の内二丁目7番24号 小塚ビル
氏 名	菊水化学工業株式会社